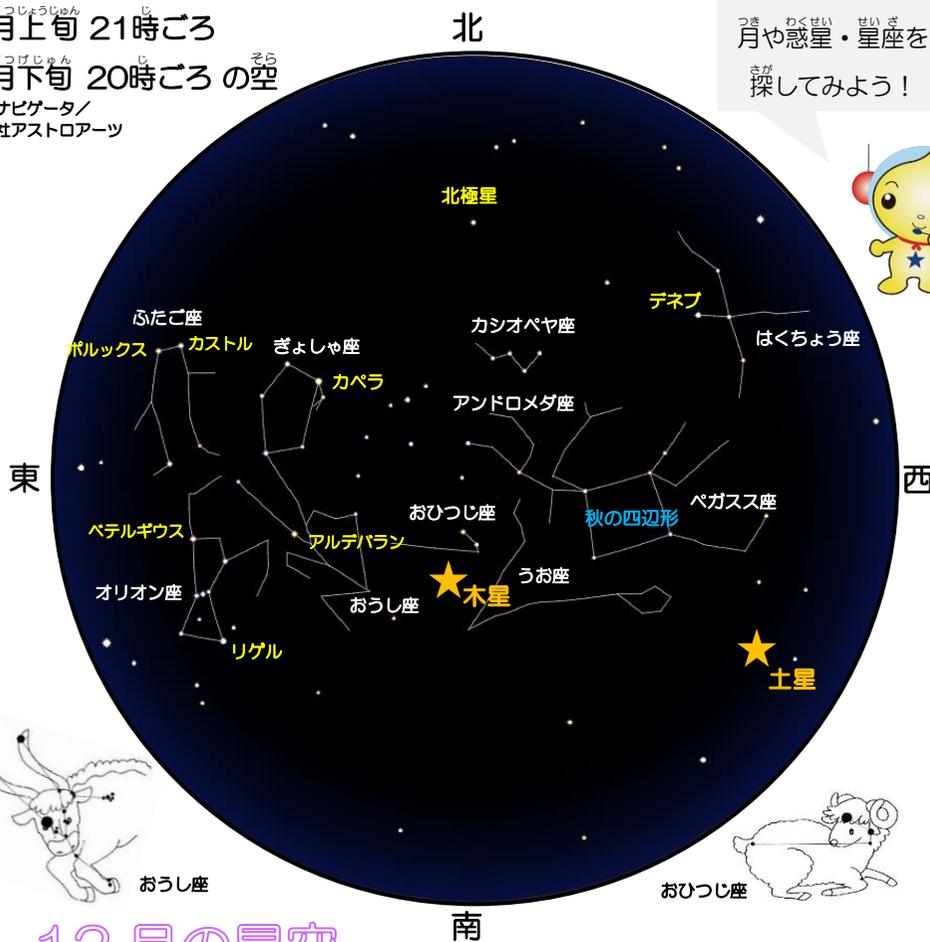


月刊 星空の散歩道 12月号

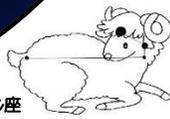
2023年

12月上旬 21時ごろ
12月下旬 20時ごろの空
ステラナビゲーター/
株式会社アストロアーツ

月や惑星・星座を
探してみよう!



おうし座



おひつじ座

12月の星空

☆宵空の主な星座と明るい星☆

西の空に秋の星座が見え、東の空に冬の星座が見える。

- < 西 > はくちょう座 (デネブ)、ペガサス座
- < 天頂 > アンドロメダ座
- < 東 > おうし座 (アルデバラン)、ぎょしゃ座 (カペラ)、
オリオン座 (ベテルギウス、リゲル)、ふたご座 (カストル、ポルックス)
- < 北 > 北極星、カシオペア座

☆天文トピック☆

12月14日 ふたご座流星群が極大
三大流星群のひとつ。ピークは15日午前4時頃と予想されています。観察には14日夜～15日明け方がおすすめです。

12月18日 月と土星が並ぶ
月の近くに土星が見えます。

12月22日 月と木星が接近
月のすぐ近くに明るい木星が見えます。

12月22日 冬至
北半球では、1年で最も昼間の時間が短くなります。

☆月の形の変化☆

- 12月5日 下弦 ☾
- 12月13日 新月 ●
- 12月20日 上弦 ☽
- 12月27日 満月 ○

☆12月の惑星☆

- 金星…明け方、南東の空
- 木星…日没後、南東の空
- 土星…日没後、南西の空

<天文コラム> 鳥の星座

冬を代表する星座のオリオン座の南に「はと座」があります。88個ある星座の中で鳥は意外と多く、「からす・わし・はくちょう・つる・ほうおう・はと・きょしちょう・くじゃく・ふうちょう」の9個ですが、過去には他にも鳥の星座がありました。

1822年に出版された『ジェミーソン星図』には、うみへび座の尻尾あたりに、頭に耳のような羽角がある鳥が描かれています。鳥に詳しい方なら「ミミズク」と思われるかもしれませんが、星座の名前は「ふくろう座」といいます。しかし、1801年出版の『ボーデの星図』を見ると、まったく同じ場所に「つぐみ座」が描かれていました。他にも「ドードー」や「きつつき」とされていたこともあり、同じ場所でも人によって星座が違う事態になりました。そこで、国際天文学連合が1928年に世界共通で現在も使われている88個の星座を定めたのです。

残念ながらふくろう座やつぐみ座はなくなってしまいましたが、夜空を眺めながら鳥の星座を探したり、どの星を結んだらどんな鳥に見えるか想像したりするのも楽しいかもしれませんね。

